

# 北部保健所(宇佐・高田地区)の感染症情報

令和2年 第38週 (9月14日～9月20日)



## ○県内の新型コロナウイルス感染症患者の発生が158例ありました(令和2年9月23日現在)。

(新型コロナウイルス感染症とは)

発熱やのどの痛み、咳が長引くこと(1週間前後)が多く、強いだるさ(倦怠感)を訴える方が多いことが特徴です。感染しても軽症であったり、治る例も多いですが、季節性インフルエンザと比べ、重症化するリスクが高いと考えられます。重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。詳しくは大分県のホームページ「新型コロナウイルスに関するお知らせ」を御覧ください。

## ○6月から9月にかけて、県内で腸管出血性大腸菌感染症(O103、O157等)が報告されています。

腸管出血性大腸菌感染症は、O157をはじめとするペロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを経口摂取することによっておこる腸管感染が主体です。

多くの場合、3～5日の潜伏期において、激しい腹痛をとまなう頻回の水様便の後に、血便となります(出血性大腸炎)。発熱は軽度で、多くは、37℃台です。血便の初期には血液の混入は少量であるが次第に増加し、典型例では便成分の少ない血液そのものという状態になります。

## ○ヘルパンギーナが少し増加しました。

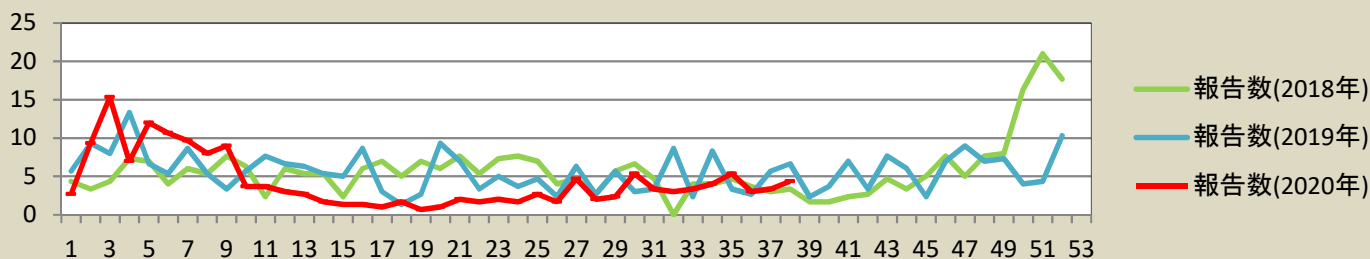
ヘルパンギーナとは、コクサッキーウイルスA群による初夏から秋にかけて、主に乳幼児に流行する代表的な感染症です。ウイルスの型がいくつかあるので、何度もかかってしまうことも珍しくありません。潜伏期は2～4日で、突然38～40℃の発熱が1～3日続き、のどが赤く腫れて小さな水疱がたくさんできます。のどの痛みが強いため、食事や飲みものを受けつけなくなることから、脱水症状を起こすこともあります。また、高熱からの熱性けいれんや、髄膜炎を併発することもまれにありますので注意が必要です。飛沫感染や接触感染が主な感染経路ですので、マスクでしっかり予防し、おむつなどの交換時は、こまめに手洗いをして感染拡大を防止しましょう。



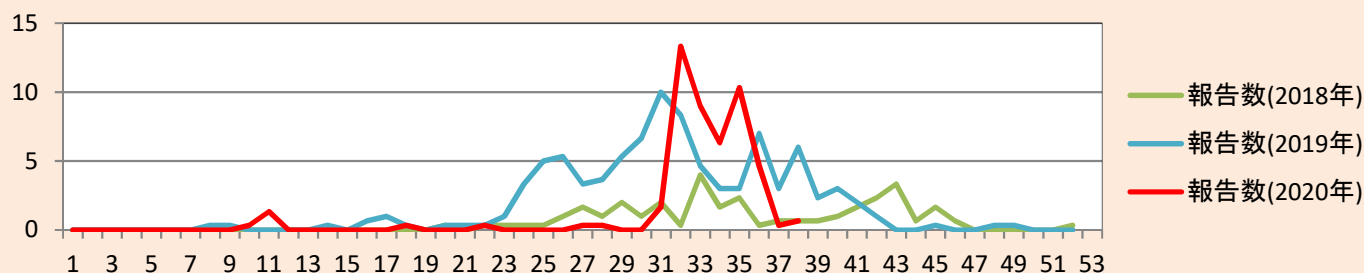
	インフルエンザ			RSウイルス	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	肺炎マイコプラズマ	麻しん(全数)
	A型	B型	不明												
0歳															
1～3歳							1.67				0.67	0.33			
4～6歳						0.33	1.33					0.33			
7～9歳							0.33								
10～14歳						0.33	0.67								
15～19歳							0.33								
20歳以上															
計						0.67	4.33				0.67	0.67			
70歳以上(再掲)															
前週					0.33	0.33	3.33	0.67	0.33		0.33	0.33			

※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上(定点医療機関数 インフルエンザ定点5、小児科定点3) ※端数処理のため、合計と年齢ごとの数値は一致しないことがあります。

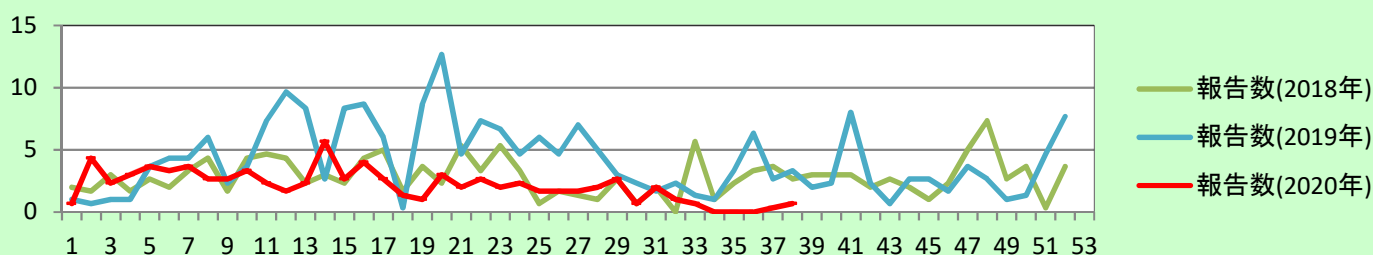
### 定点当たり報告数 感染性胃腸炎



### 定点当たり報告数 ヘルパンギーナ



### 定点当たり報告数 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



疾患ごとの警報・注意報の基準値は以下のとおりです。

症状	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

- ・「警報」:大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。
- ・「注意報」:流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

お問い合わせ 北部保健所 0979-22-2210  
豊後高田保健部 0978-22-3165